

4オケの春 待ち遠しくて

「第60回大阪国際フェスティバル2022」（朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホールなど主催）が、来年4月に開幕する。在阪の四つのオーケストラや2台ピアノが、競演し、ロッシーニのあのオペラも今年こそ味わえる。

ドボルザーク 交響曲第9番「新世界より」

関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団の競演する「4オケ」に、指揮者の秋山和慶が初登場する。

センチュリー響 指揮者・秋山和慶

ただ、それが全然ない。フレンドリーで明るい雰囲気なんです。風通しのよさにひかれ、「すぐ好きになっちゃった」と笑顔を見せる。

振るのはドボルザークの交響曲第9番「新世界より」。指揮した回数はいま100回を超える。第2楽章は「家路」としておなじみで、「祖国や離れた友人への望郷の念が曲想によく

2022
4/16



小杉豊和撮影

真摯に丁寧に「また聴きたい」演奏を

表れています。きちんとしたアンサンブルでバランスよく、心に訴える音を出したい」。

戦禍の1941年に生まれ、現在80歳。ドボルザークと同じ鉄道好きで、模型づくりが息抜きだ。中学生のとき、桐朋学園オーケストラの演奏を聴いて「背筋がぞくぞくとするほど興奮しちゃってね」。その指揮をしていたのが、日本の音楽教育の礎を築いた恩師の斎藤秀雄と、のちに兄弟子となる小澤征爾だった。演奏会後に楽屋を訪ねると、小澤に斎藤の元へ連れて行かれ、指揮者の道へと誘われた。

高校に入ると本格的な猛レスンが始まった。「口で言ってもオケは演奏してくれない。振るテクニクがなきゃ」と、基本的な技術をたたきこまれた。体にしみこんだ「斎藤メソッド」で、国内外のオケから厚い信頼を寄せられている。ただ、半世紀にわたる指揮活動の始まりは苦勞の連続だった。64年、23歳のとき東京交響楽団の演奏会でデビューするも、翌月にいきなり解散の危機に見舞われた。自主運営で演奏会を続け、「月に20回もの本番をこなすため、夜通しで勉強しました。おかげで1年のうちにベートーベンのシンフォニーを全部できたし、古典的なレパートリーを頭にたたきこめた」と、白髪まじりになって苦闘した日々を振り返る。

「真摯に楽譜を勉強して、棒を通じて相手に丁寧に伝える。本当にいい音楽だったね、また聴きたいねと言ってもらえるように」。指揮者は自分をひけらかすことなく、黒衣であれ」という斎藤の教えを胸に、指揮台に立ち続ける。（全田光）

2022
6/22 朝日カルチャーセンター関連講座
オペラ「泥棒かささぎ」レクチャーコンサート

午後2時、ザ・フェニックスホール
◇司会とお話：朝岡聡（日本ロッシーニ協会副会長）
指揮：園田隆一郎
出演：老田裕子、青山貴、伊藤貴之
ピアノ伴奏：岡本佐紀子
◇2022年3月発売予定

2022
8/9 オペラ「泥棒かささぎ」(演奏会形式)
2021年6月5日に予定していた同公演の振り替え公演

午後2時、フェスティバルホール
◇指揮：園田隆一郎
ステージング：奥村啓吾、出演：晴雅彦、福原寿美枝、小堀勇介、老田裕子、青山貴、伊藤貴之、森季子、清原邦仁、西尾岳史、片桐直樹、関西在住のソリスト陣による特別編成の合唱団、大阪交響楽団
◇2021年6月5日のチケットで入場できるほか、2022年3月から再発売予定
協賛 朝日放送グループホールディングス、関電工、ダイキン工業、大和ハウス工業、高砂熱学工業、竹中工務店、西原衛生工業所
(レクチャーコンサートにも協賛)



園田隆一郎
©Fabio Parenzan

2022
9/17 小曽根真×鈴木優人×大阪フィル
ひかれあうジャズと古典—2台ピアノの午後

午後3時、フェスティバルホール
◇ピアノ：小曽根真
指揮・ピアノ：鈴木優人、大阪フィルハーモニー交響楽団
◇ラヴェル「ピアノ協奏曲 ト長調」、ムソルグスキー（ラヴェル編曲）「展覧会の絵」、モーツァルト「2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調」
◇2022年6月発売予定
協賛 朝日放送グループホールディングス、竹中工務店



小曽根真
Photo: Kazuyoshi Shimomura (AGENCE HIRATA)



鈴木優人
©Marco Borggreve

●チケットはフェスティバルホール(06-6231-2221、https://www.festivalhall.jp/)ほかで発売 ●開催時点での新型コロナウイルス感染症の拡大状況などによっては、出演者・演目などの変更や公演延期・中止の可能性があります

シューマン 交響曲第1番「春」

「4オケ」は大阪の素晴らしい文化です。四つのオーケストラが同じ日に演奏して盛り上げようだなんて、なかなかできない。先頭バッターとして、コロナ禍のいま、エネルギーにあふれたこの曲を明るい気持ちで届けたい。



藤岡幸夫
関西フィルハーモニー
管弦楽団 首席指揮者

モーツァルト 交響曲第41番「ジュピター」

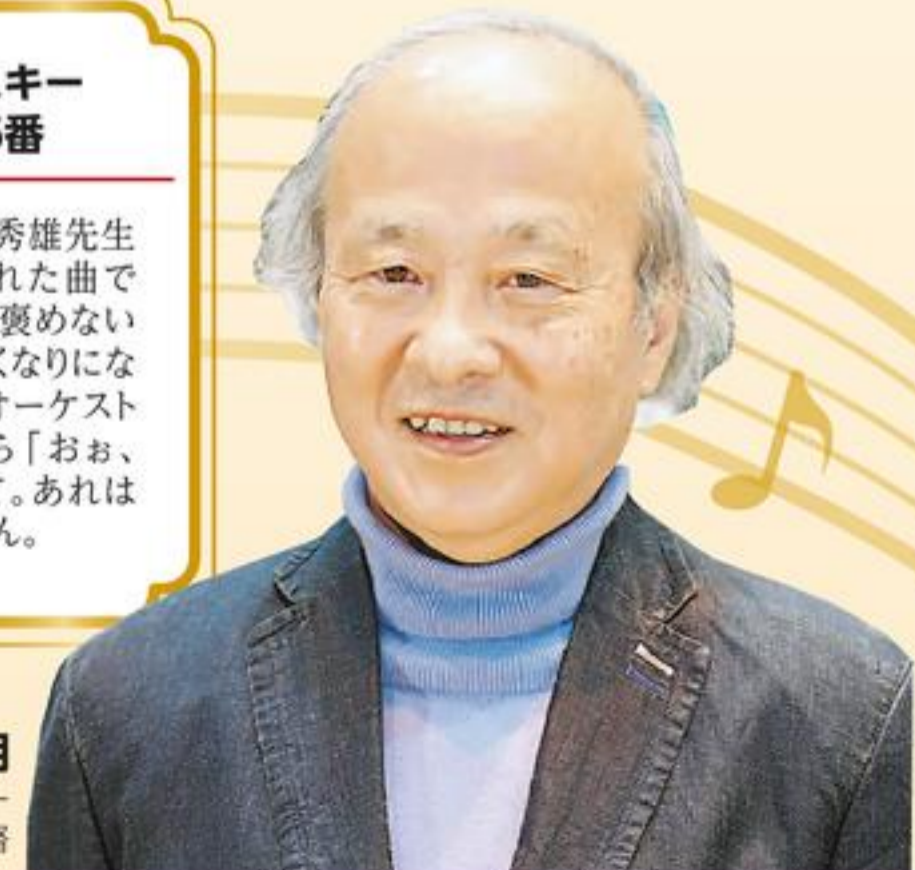
大阪交響楽団は、脳目もふらずまっすぐに作品の本質に迫ろうとするオーケストラです。色々な可能性があると思っていて精進を重ねています。なかなか会えない音楽家たちと話をするのも楽しみです。でもエピソードは秘密です。



外山雄三
大阪交響楽団
名誉指揮者

チャイコフスキー 交響曲第5番

この曲は、斎藤秀雄先生に初めて褒められた曲です。先生は絶対に褒めない人でしたが、お亡くなりになる少し前に、あるオーケストラで指揮したら「おお、おお、いいぞ」って。あれは一生忘れられません。



尾高忠明
大阪フィルハーモニー
交響楽団 音楽監督

4オケの4大シンフォニー 2022年4月16日(土)午後2時、フェスティバルホール。チケットは2021年12月18日一般発売。S席9500円、A席7500円、SS席1万1千円、BOX席1万5千円、学生席3500円ほか
●特別協賛：日本取引所グループ(JPX)、協賛：朝日放送グループホールディングス、サントリーホールディングス、竹中工務店

グラフィック キーン・ミッシェル・アンマリー